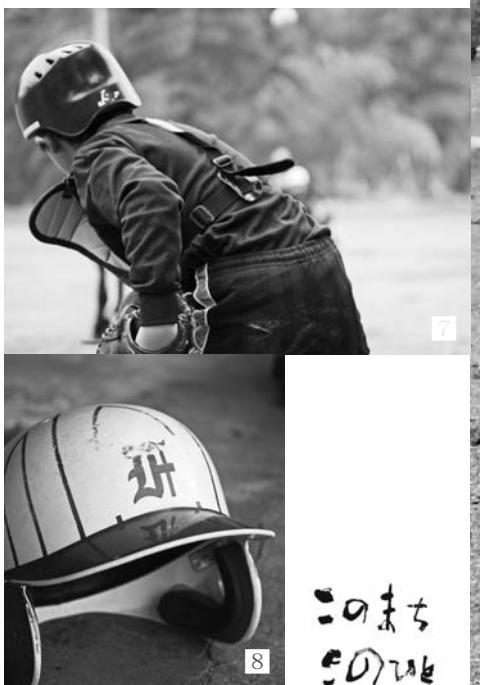




藤川スポ少・団員募集
ソフトボールを通して心と体を鍛え、協調性や礼儀なども学びます。秋の招待試合で創部30周年を迎える藤川スポーツ。みんな仲間になりませんか。男女、学年は問いません。ご連絡をお待ちしています。育成会会長 塩崎浩己 (57) 2991

監督に、藤川スポ少のこれからについて聞いてみた。
「今、3人が抜けたあと、団がどうなるか、今はまだ分かりません。現在、子供たちに教えていたらと思う子がいるうちは続けていきたいんですよ。ソフトが好きだし、何よりも子供たちが好きだから。じゃなく、30年もやれませんよ」。
練習開始から1時間と少し。今も、子供たちのバットから快音が響いています。来年の今日、ここで同じ音が聞けるようにと願いながら、グラウンドをあとにした。

①キャプテンのかけ声で駆け出す団員たち。後ろで見守るのは右から山本浩監督、山本高光コーチ、塩崎浩己育成会会長。子どもを見つめる目は温かい ②昔を思い出すと止まらない様子。団への思いを語ってくれた山本監督 ③練習前、一番乗りした高田萌くんが重い道具を運ぶ ④キャッチボールは一番最初の練習メニュー。丁寧にボールの感触を確かめる ⑤ぎゅっとバットを握り、ボールを待ち構える小田切翔くん ⑥体験入団中の上野将輝くん。今後の上達が楽しみ ⑦キャッチャーからセカンドへ送球。強肩がものをいう ⑧藤川スポ少のヘルメット。しま模様はかすれ、伝統を感じさせる ⑨重みのある速球が武器、塩崎卓巳くんのピッチング。一球一球、力いっぱい投げ込む姿が印象的だった



現団員わずか3人。でも続けたい、やめたくない。やっぱりソフトボールが大好きなんだ。

藤川ソフトボール スポーツ少年団

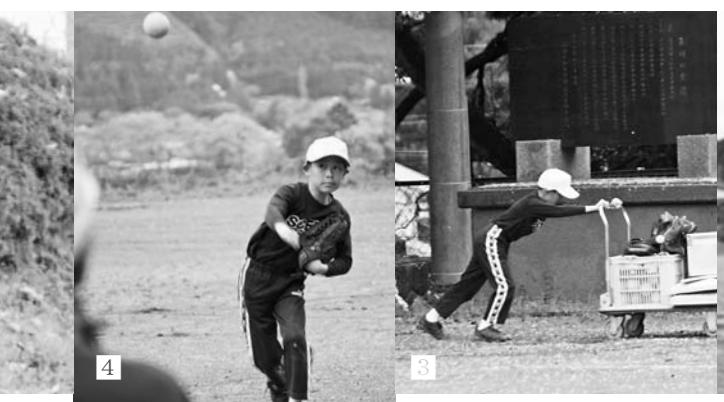
子供会の時代を含め、37年の歴史を誇る藤川ソフトボルススポーツ少年団。しかし少子化のあおりを受け、現在休団の危機に瀕している。「それでも、やりたいという子がいる限り、続けていきたい」と山本浩監督の意志は固い。4月中旬、子どもたちのかけ声がこだまする藤川地区グラウンドを訪問した。

ずなの深さ」を感じた。

塩崎さんは、山本監督について次のように話している。

「わたし」が藤川スポ少にかかわって約10年。山本監督の最初の印象は『厳しい人』でした。大きな声も出すし、ときには叱ることもあります。でも、そこから教わることがたくさんある。きっとどの子も、どこへ出込んで、自分の子を入れさせてもらいたい。本当にすばらしい監督だと思います。最近は歳のせいか、少し丸くなりましたけどね」と、当時を思い浮かべながら少し笑っていた。

午後5時からスタートしたこの日の練習。体験入団中の上野将輝くんと、監督・コーチも一緒になつて、キャッチボール始めた。「もつと声を出そう」。山本浩監督の掛けに、全員が大きな声で応える。キャッチボールに限らずどの練習でも、監督・コーチが子どもたちに目を配り、細やかなアドバイスを送っている。子どもたちはそのたびに「ハイ！」と元気に返事し、プレーを修正する。長年培ってきた「き



まだ肌寒さの残る4月13日の夕方。野球帽をかぶった一人の少年がグラウンドに姿を現した。「こんなに大きい声でいいさつした」と、大きな声で叫んでいた。すると練習の準備を始める。その少年の名は高田萌くん。中川根第一小6年生。藤川ソフトボルススポーツ少年団(以下藤川スポ少)団員の一人だ。

藤川スポ少は毎週火・木曜の夕方、藤川集会所横のグラウンドで練習している。現団員は、萌くんを含めわずか3人。全員が小学6年生だ。最盛期、30人以上を数えた団員数は、この10年で減少の一途をたどり、今年度3人にまで減少してしまった。

「単独でチームを組むことができないため、牧之原のチームと連合を組み、各地で開催される招待試合や大会などに出場しています。それとは別に、榛原クラブというクラブにも所属し、全国大会を目指し練習に励んでいます」と語る塩崎浩己さんは、同育成会会長を務めている。

初のころは、返事もできない子たちだったんですよ」と監督は笑う。目の前の礼儀正しい子どもたちからは想像もできない。

山本浩監督は、藤川スポ少で30年前。子供会時代の7年を含め、足かけ37年もの長きにわたり、子どもたちを見守り育ててきた。

「わたしがPTA副会長を務めた37年。子供会の球技大会が始まりました。そこで副会長職のかたわら、見守り育ててきた」。

子どもたちの指導をするようになつたんです。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。

今も昔も、保護者の理解と協力なければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも、

子どもたちに教えていたらと思つてあります」と、感謝の気持ちが顔をのぞかせた。

「わたしがP.T.A副会長を務めた37年。子供会時代の7年を含め、足かけ37年です。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。

今も昔も、保護者の理解と協力なければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも、

子どもたちに教えていたらと思つてあります」と、感謝の気持ちが顔をのぞかせた。

「わたしがP.T.A副会長を務めた37年。子供会時代の7年を含め、足かけ37年です。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。

今も昔も、保護者の理解と協力なければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも、